

2014年7月3日

各位

大阪信用金庫
理事長 樋野 征治

定例調査：第160回景気動向調査（4～6月期）

- ☆需要の反動減 売上D I・収益D I マイナスへ 見通しは上向く
- ☆好調な設備投資続く 設備実施・予定が19.0%
- ☆「売上・受注の停滞減少」が最大の問題点
- ☆「夏のボーナス支給する」54.2%

●需要の反動減 売上D I・収益D I マイナスへ 見通しは上向く！

総合では、売上D Iがマイナス9.3（前回比-14.9ポイント）、収益D Iがマイナス14.1（前回比-14.3ポイント）となり、売上D I・収益D Iともにマイナスとなりました。ほとんどの業種で駆け込み需要の反動が出ました。しかし、売上の見通しはすべての業種で回復を予想していますが、収益では仕入価格の高騰や人件費、燃料費の高騰が暗い影を落としています。

●好調な設備投資続く 設備実施・予定が19.0%

売上D Iや収益D Iはマイナスとなりましたが、設備投資は「実施中」が8.0%（前回比+0.5ポイント）、「予定有り」が11.0%（前回比+1.0ポイント）となり過去1年間で最も高くなりました。設備投資の内容は、「機械等の新設・増設」が28.4%と最も多くなりました。特に、製造業では（設備実施+実施予定=22.9%）となり設備投資意欲が上昇しています。

●「売上・受注の停滞減少」が最大の問題点

経営上の最大の問題点は「売上・受注の停滞減少」で52.4%となっています。また、「人手不足」は建設業で42.4%、運輸業で40.6%となり、依然として大きな問題点の一つとなっています。

●「夏のボーナス支給する」54.2%

夏季賞与を支給すると回答した企業は全体の54.2%（前年比+9.0ポイント）となり、昨年と比較してボーナスを支給する企業の割合がすべての業種で増加しました。夏季賞与支給状況を規模別に見ると、従業員規模が大きくなるほど支給する企業の割合が高くなる傾向があります。金額別の支給状況は、「11～20万円」が32.9%で最も多く、「21～30万円」が32.7%と続いています。

調査時点：2014年6月上旬
対象期間：2014年4～6月（実績） 2014年7～9月期（見通し）
対象企業：当金庫お取引先社1,813社（大阪府内、尼崎市）
回答企業数：1,273社（回答率70.2%）
調査方法：調査票郵送および聞き取り調査

本調査に関するお問い合わせは下記までお願いします
株式会社だいしん総合研究所（担当：平山）
TEL：(072) 238-8021 FAX：(072) 238-8002
E-mail：souken@osaka-shinkin.co.jp
URL <http://www.osaka-shinkin.co.jp>